

創立 60 周年を迎えて

会社創立60周年に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

当社は、1952年（昭和27年）戦後間もない荒廃の中、地域の雇用と再生を夢見て、当時の芦峯寺総代をしていた父、志鷹新太郎が設立した会社です。以降多くの皆様に助けられ、支えられ、本日を迎える事ができました。

顧みますに創業当時、芦峯寺では猟師や炭焼きぐらいしか仕事を持っている人がいなかったと言うことで、雑穀谷で県が直営で行っていた工事を引継いだのが始まりでした。

時代とともに日本の景気が上向き始め、徐々に工事量も増加

し安定してきた矢先、昭和44年8月の集中豪雨により常願寺川が氾濫し、土石流により大災害をもたらしました。私はまだ高校へ入ったばかりの時でありましたが、鮮明に覚えております。藤橋の事務所が流され、給与が入った金庫も流され、重機やダンプカーなども流されましたが、幸いなことに人命は助かりました。当初、父は会社を辞めようかと悩んでいましたが、残った社員から「もう一度会社を立て直そう」と励まされたことや、佐伯宗義先生から「これから20年間は仕事の心配せんでも、良くなったではないか」と励まされ、また、生コンクリートプラントを新設し、社員のがんばりと、丸新会（協力会社）の皆さまの力で大きく飛躍することができました。

1991年（平成3年）立山芦峯小学校とネパールクムジュンスクールが姉妹提携を結び、翌年交流促進のためにカトマンズにネパール支店を開設することとしました。支店長にはネパール政府や議会の要人とも繋がりのある、アンドレシエ・ラマ氏に就任していただきました。しかし、8月に日本を訪れて今後の方針について話し合っていたラマ夫妻が、帰国途上の飛行機事故で亡くなられてしまい、現支店長のハクパ・ギャル・シェルパ氏に後を継いでもらいました。ハクパ氏は当時、クムジュンスクールの教頭をしていましたが、ネパールの国づくり、生徒の雇用などについて理解を示し、承諾してもらいました。また、1994年（平成6年）より中央職業能力協会（JAVADA）を通じて、ネパール研修生を受け入れ、日本語とともに土木技術や知識を教えてきました。この研修は2004年で終了しましたが、受け入れた研修生は総勢88名を数えました。ネパール支店での主な工事は2008年に、メラムチ上水道取水施設迂回道路改良工事、2011年カルナリ川灌漑工事、2011年ブータン王国での道路工事3件です。彼らはこれらの工事に携わっているほか、日本へもワーキングビザを取得して、特に山岳工事に従事してもらっています。

国内では東北大震災によって、社会資本整備の大切さが見直されつつある今日ではありますが、我々の業界においては、まだまだ厳しい時期が続いております。今後、国内においては地域の安心、安全を、ネパール支店においては、南アジアの社会資本整備の一翼を担える企業として、誇れる企業を目指して会社一丸となって努力していく所存であります。

今日まで、当社に頂きましたご厚情に感謝申し上げますとともに、今後なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。そして、今日を築き上げてくださった、ご退職者の方々、並びに社員の諸君とご家族の皆様に心より感謝いたします。

ありがとうございました。



代表取締役社長 志鷹新樹